麻疹・風疹・おたふくかぜ混合(MMR)ワクチン 商品名:プライオリクス

MMRワクチンは、麻疹、おたふくかぜ、風疹に対する予防効果をもたらします。

目的

MMRワクチンは次の感染症への免疫を強化します。

- ・麻疹
- ・おたふくかぜ
- ・風疹

これら3つの感染症は人から人へ容易に感染し、髄膜炎、失明、難聴などの深刻な健康問題を引き起こす可能性があります。妊娠中に麻疹に感染すると、早産、流産、死産の原因となる可能性があります。また、風疹に感染すると、胎児の視覚や聴覚への損傷など、深刻な問題を引き起こす可能性があります。MMRワクチンを2回接種することで、長期的な予防効果が得られます。ワクチン接種は、胎児や新生児、免疫力が低下している方など、ワクチンを接種できない人々を守るのにも役立ちます。

対象者

MMRワクチンはすべての乳幼児に推奨されますが、幼少期に接種していない年長児や成人も接種可能です。通常、接種は1歳以降に行いますが、6~12ヶ月の乳児は、以下の場合に接種を考慮します:

- ・麻疹流行地域への渡航時
- ・麻疹患者との濃厚接触時
- ・麻疹集団発生時

接種不適当者

MMRワクチンが必要なほとんどの方は接種可能ですが、 生ワクチン(弱毒化した麻疹・おたふくかぜ・風疹ウイルスを含む)であるため、 すべての方に適しているわけではありません。 以下の場合はMMRワクチンを接種できません:

- ・妊娠中の方
- ・健康状態や免疫抑制剤の服用により免疫力が低下している方
- ・ワクチン成分に対して重篤なアレルギー反応 (アナフィラキシー) を 起こしたことがある方

麻疹・風疹・おたふくかぜ混合(MMR)ワクチン 商品名:プライオリクス

接種方法

MMRワクチンは上腕または太ももへの注射で接種されます。 免疫を得るため計2回の接種が推奨されています。 2回連続で摂取する際は、少なくとも1か月の間隔をあけて接種します。

他のワクチンの同時接種

MMRワクチンは黄熱ワクチンを除き、他のワクチンと同時接種できます。 黄熱ワクチンを接種する場合、接種間隔を4週以上空ける必要があります。 MMRワクチンは他の生ワクチンと同日接種が可能ですが、 別の日に接種する場合は、両ワクチン間の間隔を4週以上空ける必要があります。

副反応

全ての医薬品と同様、MMRワクチンにも副作用が生じる可能性がありますが、 全員に現れるわけではありません。 局所の発赤や疼痛といった一般的な副作用は通常軽度で、2~3日で治まります。 その他にも以下のような症状がでることがあります:

- ・接種後7~11日頃に現れる発疹(麻疹の発疹に似ています)、体調不良、高熱
- ・接種後2~3週間頃に現れる、頬・首・顎周辺のリンパ節の腫れ、 関節痛(軽いおたふくかぜのような症状)

重篤な副作用(アナフィラキシーなどの重度アレルギー反応)は稀です。 接種者はアレルギー反応への対応訓練を受けているため、 万が一、重度のアレルギー反応が出現した場合は、直ちに処置を行います。

研究により、MMRワクチンと自閉症の関連性は認められないことがわかっています。

有効性

MMRワクチン接種後、2週間以内に免疫が形成されます。 2回接種後、約99%の人が麻疹と風疹に対して予防効果を得られ、 約88%の人がおたふくかぜに対して予防効果を得られます。 ワクチン接種後におたふくかぜにかかっても、 症状は通常、接種せずに感染した場合と比べてはるかに軽くなります。

麻疹・風疹・おたふくかぜ混合(MMR)ワクチン 商品名:プライオリクス

輸入ワクチンについて

海外には種々の感染症に対するワクチンがありますが、その中には日本で 認可されていないものもあります。プライオリクスはそのようなワクチンのひとつです。 大阪大学医学部附属病院の感染症内科外来では、 当院の未承認新規医薬品等診療審査部による審議で承認されたワクチンを 輸入して提供しています。

プライオリクスは海外で安全性と有効性の実績があり、世界で標準的に使用されているワクチンです。ワクチンを含むすべての医薬品には、重篤な副反応が起きる可能性があります。そのような副反応に対して治療が必要な場合は、健康保険による保険診療で対応いたします。ただし、国内で承認されているワクチンの場合、厚生労働省の審査で接種による重篤な副反応と認められた場合、「予防接種健康被害救済制度」または「医薬品副作用被害救済制度」による補償が受けられますが、未承認ワクチンはこの補償の対象になりません(輸入代行業者による補償は受けられます)。

参考

https://www.nhs.uk/vaccinations/mmr-vaccine/